

モバイル端末やクラウドを介して、在宅高齢者の診断情報、バイタル情報、その他の健康情報を共有化することで、訪問介護者・かかりつけ医が高度なコミュニケーションをはかる在宅メディケアシステムの開発。

実施期間：平成28年度～平成30年度 実用化計画開発実施場所：いわき市、田村市

在宅医療の効率化・連携強化・質の高い医療の提供を実現する、 在宅メディケアシステム開発

現状・背景

高齢化社会に向けて在宅医療においては、①医師不足による業務負担の増大、②在宅医療従事者の連携不足、③質の高い医療の提供といった課題があり、これらを解決すべくモバイル端末やクラウドを介して診断情報・画像・その他健康情報を共有するシステムを開発中。現在、試作機を開発しながら現場ヒアリング等実施中。

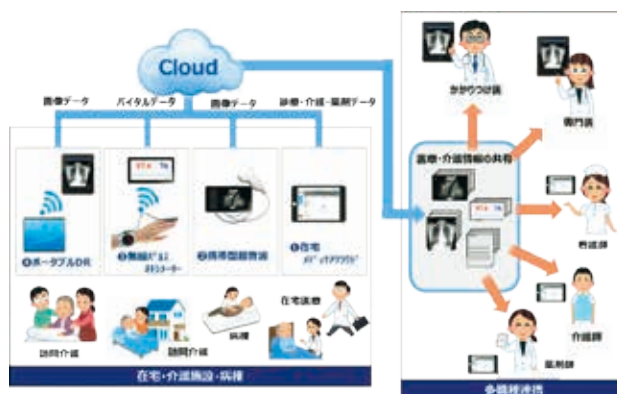
研究(実用化)開発のポイント・先進性

①在宅メディケアクラウド、②携帯超音波診断装置、③無線パルスオキシメーター、④ポータブルDRの4テーマ開発と、地域病院での実証実験を通して、在宅メディケアシステムを構築します。

4テーマとも技術をコニカミノルタ内で自社開発し、福島コンピューターシステムのソフト開発力を併せて、持ち運びやすくするための小型化、使い易い操作性を実現し、医療現場で即戦力となるシステムに仕上げます。

研究(実用化)開発の目標

2018年度中の実証実験を行い、2019年度に商品化を目指します。2020年までに大小約40のコミュニティでシステム立ち上げを目標としています。



浜通り地域への 経済波及効果(見込み)

浜通り地区で在宅メディケアクラウド・携帯超音波・無線パルスオキシメーター・ポータブルDRを開発し、まず、同地区において、これら全ての実証実験を行います。この実証実験を通じて、高齢化が進展する浜通り地区の住民への貢献を検証します。また、ICTを実際の医療現場で活用することにより効率的で質の高い医療の先導的実証成果が期待でき、得られた成果を福島県及び日本全国、将来的には高齢化が進展する海外にまで展開できる波及効果が期待できます。

これまでに 得られた成果

- ①携帯型超音波診断装置の試作機開発と、臨床画像を用いての在宅医療向け機能改善。
- ②無線パルスオキシメーターのモニタリングシステム試作機の開発と臨床現場調査。
- ③在宅向けポータブルDRに必要なとされる、撮影画像記録・送信・状態表示機能の開発。
- ④上記試作機を使った、在宅医・看護師・放射線技師・介護者、行政関係者へのヒアリングや試作機評価を実施し、現場の理解を深めた。

開発者からの浜通り復興に 向けたメッセージ

在宅メディケアシステム開発を進める中で、在宅医療従事者の皆様のご苦勞をお聞きし、少しでも在宅医療従事者ご負担を減らし、患者様・患者ご家族の皆様へ質の高い医療の提供を行いたいと、より強く思うようになり本開発をぜひ実現したいと思います。

本システムの実現には、在宅医療に関わる皆様の声が欠かせません。特に、在宅医療の最前線におられる医師・看護師・介護師などの皆様は、日々お忙しいと思われそうですが、ぜひ、引き続きご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。